

京都大学  
**人 社 未 来 形**  
**発 信** まんが

はやのん理系漫画制作室

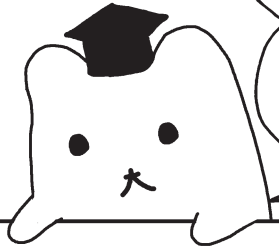
第5回

「災害から見える  
地域の姿」

今回は災害を通して  
インドネシア地域研究をしている  
西芳実先生のお話です!

西先生……

地図をよく見ると  
インドネシアって  
島がたくさんあって  
東西に広い国  
なんですね!



そうなんです!

アメリカ合衆国と  
同じくらいの  
幅の国土に  
16,000以上の島

その中に  
2億6,000万人が  
暮らしている国です



言語・方言は数百に分かれ  
民族・階層と  
多様な人々で社会が  
つくられている国なんですよ

とても  
フクザツ  
そうですね

入

私はもともと  
インドネシア現代史の研究者で  
1997年から3年間  
スマトラ島にある  
バンドアチエに暮らし  
研究をしていました

ところが  
その後2004年  
スマトラ島沖地震が  
発生し……

インドネシアの  
最西端に位置する  
バンドアチエも  
津波の大被害を  
受けたんです

それまでは  
内戦で閉ざされていましたが  
調査や人道支援で  
国の内外から多くの人々が  
やって来ました

その時  
現地のことを  
知っている人が  
必要になり……

これがきっかけで  
災害対応の  
地域研究に  
取り組むことにな  
ったんです

東南アジア地域研究研究所  
関連地域研究部門

西芳実 准教授





インドネシアの中でも  
アチェは  
オランダの植民地だった  
19世紀から  
20世紀にかけて  
独立運動や  
その後の内戦など  
ずっと背景に  
戦争がありました

内戦中は戒厳令のもと  
地域の住民は  
政府軍にも反政府軍にも  
抑圧された暮らしを  
続けていました

それらの勢力により  
島の道路を封鎖されると  
他の地域との交易が  
できなくなってしまう  
というのが  
アチェの弱点だったんです

そんな事情が…!



しかし  
津波によって  
状況が一変しました!

復興によって  
外部の人が継続的に  
この地域に出入りして  
くれている限り

アチェ州全体で  
17万人もの人々が  
命を落とした  
悲しい出来事のあとに

アチェの人々が  
笑顔を見せるのは  
このような  
地域の背景が  
あるからなんです



この  
外の世界とのつながりを  
保っていくために……  
またさらに発展したもの  
になるように

それまではなかった  
「防災教育」が  
インドネシアに芽生え

あらゆる宗教・民族・  
階層の人々に  
さまざまな手段で  
伝わっていくよう  
研究や実践がなされています



伝統・文化・歴史  
美しいもの  
悲しい出来事  
あらゆることが  
複雑に入り交じり



災害を通して  
地域社会が抱える問題が  
浮き彫りになっています

医療や教育の問題などに  
どう取り組んでいくのか  
地域研究を通して  
考えたり  
行動を起こして  
いきたいです!